

# 仕事を探すということ

## - ひとりひとりのハローワーク -

第一生命経済研究所 常務取締役  
村場 悦郎

総務省が1月末に発表した労働力調査(速報)によると、全体の失業率が平成15年度年間で5.3%と前年より0.1ポイント改善、12月単月では4.9%(季節調整値)で2年半ぶりに5%を下回った。このように全体的には雇用の悪化に歯止めがかかったようであるが、男性15~24歳と65歳以上、女性35~44歳と55~64歳の年齢層では依然として失業率の悪化が続いている。特に男性15~24歳は11.6%と前年よりさらに0.5ポイント悪化しており、中学校、高校や大学を出て就職できない層の多いことを示している。またこの世代は無業者・フリーターの増加、高い離職率という問題もかかえている。

さて、高度成長期にはベルトコンベアに乗れば、すなわちそれぞれの時点で努力をすれば(ガンバレバ)それなりに学校に入り、次に会社に入って仕事と収入を得て、やがて年功序列で地位も収入も上がる、ということが多くの人にとって可能な時代だった。ところが、昨今の低成長下ではそれが難しい時代になってきた。かつて「寄らば大樹」ともてはやされた複数の大企業がバブル崩壊後に再編・消滅で様変わりした現実があり、どこに入社すれば絶対大丈夫ということが言えない時代である。いつの時代でも多くの人にとっては、まず何よりも生活の糧を得る仕事を見つけることが人生の基盤であることに変わりはないであろうが、現今の厳しい時代に人は、特にこれから社会に出ようとする若者は、どのようにしてその基盤を手にしたらいいのか。冒頭の失業率では15~24歳男性が最も高い(40万人)し、同世代女性も8.6%(28万人)と女性の中ではいちばん高く、この年代の失業は深刻である。

内閣府が平成15年2月~6月に行った世界青年意識調査(昭和47年から5年ごとに実施され今回は7回目、対象は18歳から24歳までの男女)によると、悩みや心配ごとで今回初めて「就職のこと」が日本の青年の1位になっている。ちなみに「就職」が1位はほかに韓国、スウェーデンとドイツでは2位、アメリカでは5位である。また、

---

ある新聞の大学生調査によると、就職先を選ぶ基準では「仕事が面白そう」が圧倒的に多くなっている。このように若者が仕事を求める切実さとその選択基準が変わってきていることがわかる。あるかなきかの曖昧なベルトコンベアを探すのではなく、仕事選びの一番の基準は、まず何よりも自分がやりたい、自分に合った仕事を探し当てることだろう、と思われる。

教育現場での職業教育の重要性が見直されているが、最近では文部科学省の専門家会議が1月末の報告書で生徒に勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進を提言した。これを踏まえ文科省は来年度から進路指導専門教員の育成や日本版デュアルシステム（企業実習や職業教育による実務・教育連結型人材育成）の導入に向けモデル実施をすることとしている。従来職業人としての育成は企業にほぼ全面的に任されていたが、若者をめぐる就職環境の悪化を受け大きな変化を見せようとしている。

最近面白い本を読んだ。作家村上龍の「13歳のハローワーク」という大判の分厚い本である。世の中にはこんな仕事があるよと、500種類を超えて案内してくれている。取り上げられた仕事の中には、たとえばブラックバスを釣るプロのバスプロが高額の収入を得ているなど今まで聞いたこともないようなものもあった。その年代の子どもを持つ親世代を中心に販売部数が伸びているようだ。作者は年功序列など日本が維持してきた制度ががらりと崩れて厳しい社会になった中で、これから学校を終え自分の人生をどう生きるか、言い換えれば何を仕事として人生の基盤とするかを考えるこれからの世代に、考えてもらいたいと思って書いたものという。好奇心の先に仕事がある、というのが作者のスタンスである。これからの仕事を考えるということは、まさにこれからの日本や世界の動向、世の中の変化を考えることと同じことかもしれない。そういう意味合いからもこの本は単なるガイドブックを超えた面白さがある。自分の興味のあるところを見つめる機会と、自分がどのような仕事に向いているか、を考える材料をたくさん与えてくれる。また、若者だけでなくリストラに直面する中高年にも、定年後の生き方を模索する世代にも、再就職やボランティア、趣味などを考える上で参考になる内容も盛られていて幅広く活用されそうだ。

今月号では、介護、保育の状況がレポートされているが、二つともそれを支える「職業」を抜きには万全の体制は考えられない。豊かな高齢社会、子育てのしやすい社会を作っていくために、介護、保育分野の仕事の役割はますます期待され、やりがいも増していくのではないだろうか。またそうなることが望ましいと言えよう。